

—山田分団長、改めて優勝おめでとうございます。優勝の瞬間はいかがでしたか。

山田：ありがとうございます。実は結果発表の時に熱中症になってしまい、優勝したことは人づてに聞きました。もうろうとしていましたが、もちろんうれしかったですし、選手や団員は抱き合って泣いて喜んでいました。

青山：県操当日、私は会場には行けなかったのですが、結果はすぐに耳に入りました。刈谷市として2連覇は本当にすごいと思ったのですが、来年出場が決まっている身としては「やってくれたな…」と。

山田：それ一昨年自分も思いました（笑）。前回第4分団が初優勝した時は一気にプレッシャーがかかりましたね。

青山：女性消防団の全国準優勝から波に乗っちゃって…。県3連覇しないといけない雰囲気、もう既に胃が痛い（笑）。

県消防操法大会出場分団 分団長 特別対談



令和7年度優勝
第10分団（小垣江本郷）
山田 博貴 分団長



令和8年度出場
第21分団（井ヶ谷）
青山 稜 分団長

お手伝いに来ていただいていたが「でた！手巻き！」みたいに、個性をいじってもらいつつ練習を楽しんでもらっていました。選手のテンションを上げるには、とにかくサポートの雰囲気良くないことには始まらないと思います。協力してくれる人たちも巻き込んで雰囲気良く練習ができれば、結果はきつとついてくると思います。あとは暑さ対策をはじめ、選手の体調管理も大切です。

青山：山田さんがおっしゃるとおり、選手たちのテンションやモチベーションを上げていくのは自分の役割だと思うので、しっかりと時代に合ったやり方でできればと考えています。胃が痛いとは言いましたが、目指すところは刈谷市として県操3連覇です。消防署の方や北部の他分団、第10分団の方々の力をお借りすることになるとは思いますが、自分たちのできることをしっかりやって、刈谷市消防団をさらに盛り上げることができるよう頑張りたいです。



みんなが楽しんでできる
雰囲気づくりを

—第21分団の県操出場選手は決まっていますか。

青山：確定はしていませんが、前回の市の大会に出場した団員を軸に決まり始めている段階ですね。ありがたいことに大学生の多い地域ですので、学生主体の若いメンバーで臨みたいと思います。その中で少し年齢が上の副分団長も出場するので、選手は副分団長に引っ張ってもらい、自分は選手が気持ち良くできるようサポートに徹する形でやっていきます。

山田：私たちもほぼ同学年の若い6人に選手を任せました。出身中学・部活も同じだったのでチームワークは抜群でしたね。選手同士でもコミュニケーションをとって励まし合いながらできていたと思います。

—今年度の市の大会では、第10分団は3位、第21分団は8位でしたが、どう感じていましたか。

山田：当然優勝を目指していたので、逃したことは悔しかったです。ただそこで優勝できなかったからこそ、県操に向けて頑張れたのかなと思います。昨年度の県操で優勝した第4分団が優勝しましたが、とにかくスピードがありました。

青山：上位分団は軒並みスピードがありましたよね。速くないと上位にいけないと痛感しました。

山田：私たちも同じことを思っていました。市の大会の後は、少しでもタイムを縮めるために細かい動きを少しずつ素早くできるよう研究しました。他分団がやっていたけど自分たちは試したことがなかった動きも挑戦し、選手に合った動きを見つけていきました。その過程で、消防署の指導員の方、他分団からの応援団員にも協力いただきながら練習していたので、ありがたい気持ちと結果で返す気持ちでいっぱいでした。

青山：私たちは今年度入賞（10位以内）できたことが良かったです。最近の入賞も遠のいていたので、次につながる結果だったと思います。後は選手や団員のモチベーション次第だと思うので、上げられるようにサポートしていきたいです。

—山田分団長は第21分団にアドバイスを、青山分団長は県操に向けての意気込みをお願いします。

山田：練習では付き物のホース巻きですが、第10分団は市内消防団で唯一ホース巻き用の道具を使わず、手巻きする分団です。他分団からも練習の

選手・団員の
モチベーションを大切に

